

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 みらいplus		
○保護者評価実施期間	2024年11月5日		2024年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38名	(回答者数) 29名
○従業者評価実施期間	2024年11月5日		2024年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・集団での活動ができる。 ・個別に加え、小集団での療育を行うことができる。 ・小集団活動がある。 ・小集団療育 	<p>子ども同士であえて関わる場面を作ったり、近くで遊ぶ環境にしたりしている。</p> <p>子どもたちの興味関心にできるだけ合わせて集団活動を行っている。療育中だけでなく、自由遊びでも支援者や他児と物の貸し借り、言葉のやりとりをする機会を意図的に作る。</p> <p>司会進行をしている保育者に注目出来る様、声掛けを行っている。</p> <p>視覚支援のボードを使い、見通しが持てるように活動を進めている。また、それぞれにあわせて取り組みの内容・難易度をかえている。</p>	<p>子どもたちに無理のない範囲で子ども同士で関わる機会を更に多く作っていく。(他児に興味を持つ、関わりを楽しく感じる)</p> <p>保育者が子どもと子どもの間に入り、気持ちの受容や大便を行う。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の支援者で個別療育を交代で行っているため、色々な角度から子供が見られる。 ・子：職員＝1：1以上で配置されている為、必ず1人職員がついて対応ができる。 	<p>1ヶ月交代で療育する子を決めている。ミーティングなどで療育のねらい困り事などを話し、情報共有している。</p> <p>自由あそびでは、子どもに必ず誰かが付き、子どもが1人で遊んでいることがないようにしている。</p>	<p>問題行動がある子に対する対応の仕方を書き、決めておく。</p> <p>スタッフと子どもの関わりを子どもと子どもに関わりをもっと繋げていけたらと思う。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースが広く、大きなトランポリンやボルタリングなど、身体を動かす活動ができたり、大画面で映像がみれたり、道具が揃っている為、活動の幅が広げられる。 ・部屋が広い ・大型遊具が安全な環境で使用できること。 	<p>集団活動では、机上の活動と身体を動かす活動をまんべんなく取り組めるように週ごとに取り入れている。</p> <p>リトミック遊びや運動遊びを行い、子どもたちの発達を促している。</p> <p>支援者が使用する毎に準備するため、必ず1対1か1対2で側について使用している。</p>	<p>道具を生かして活動の内容をさらに深められるよう、ゆっくり話あえる時間が欲しい。</p> <p>週1回ミーティングを行い、活動時に予想される子どもの姿を話合っている。</p>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・トランポリンやはしごなど、気になるものが目に入る。 ・構造化ができていない。 	<p>移動できないトランポリンをネットで隠しているが、見えるので行ってしまう。</p> <p>運動遊具を置いているが、はっきりとした仕切りがない。</p>	<p>見えないカーテンで隠す。</p> <p>ネットではなく、完全に見えないようにする。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの問題行動に対する対応を、職員間で共有できていない。 ・グループの支援者同士では、子どもたちの様子や課題について話し共有できている。療育や送迎の担当も月1回ローテーションで回しているが、個別にも通っている子どもに関して、個別での様子、グループでの様子を共有する時間があまりない。 ・保育者の人数が少ない。 	<p>定期的にグループ職員全員で話す時間が取れていない。</p> <p>ABA療育として、どう対応するべきか職員自身もわかってないことが多い。</p> <p>支援者がそれぞれに療育や時間的な制限があり、事業所も違うので話せるタイミングがあまりない。</p> <p>子どもの来所する時間や帰る時間もバラバラなので、バタバタしてしまう。トラブルが起きた時、助けを求めにくい。</p>	<p>グループ職員みんなで話し合える時間があればと思う。</p> <p>研修など、学ぶ機会があればと思う。</p> <p>支援計画の面談前にメモや話で担当する子の様子を共有している。お互いにあまりタイミングがない時は、話す時間や療育を見る時間が時々あっても良いのではと思う。</p> <p>送迎の添乗する保育者の見直し</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・十分なスペースはある分、子どもによって走り回ることが危険な時がある。 	<p>コーナークガードが外れていたり、ケガに繋がりそうな箇所があったりすることがある。</p>	<p>ケガに繋がりそうな所は、必ずブロックをし、常に職員が見守れる体制を作る。</p>

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童発達支援 みらいplus
------	----------------

公表日 2025年 2月 3日

利用児童数 2024年11月5日 現在 37名 回収数 29名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	29	0	0	0	・十分に確保されていると思います。	子どもたちが安全面を配慮して、引き続き活動しやすいスペースを確保していきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	28	0	0	1	・一人に対し、人数も十分だと思います。	十分な人員配置を継続していきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	25	1	0	3	・壁はシンプルで、玩具も別の部屋にあるため集中しやすい空間になっていると思います。	子どもたちが活動に集中しやすいように、活動中はおもちゃが視界に入りづらいうようにする等の工夫をしています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	28	1	0	0	・さむい時がある。 ・いつも清潔にされていると思います。 ・一人ひとりの空間で区切られているので、いいと思います。	快適で過ごしやすい温度に設定して、冷暖房を必要に応じてつけます。掃除は活動が終わる度に行っているため、継続して部屋を清潔にしています。
適切 な支 援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	29	0	0	0	・長短所を理解して、声掛けや支援をしてもらっていると思います。 ・子どもの好きなものにも理解されて、課題に対してやる気を持って取り組んでいると思う。	子どもたち一人一人の特性や好みを理解し、スモールステップで楽しく課題に取り組めるように工夫をしています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	29	0	0	0	・支援内容と合っていると思う。	面談で今後も保護者の要望を聞き取り、支援をしていきます。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	29	0	0	0	・子どもの様子を聞き、そこから支援内容について考えてくださっていると思います。	子どもたちが楽しく課題に取り組めるように日々工夫して、支援をしていきます。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	29	0	0	0	・保護者の思いも取り入れてもらえ、具体的な内容が設定されていると思います。 ・具体的に支援内容について書かれていると思う。	面談や連絡帳を通して、保護者の思いを受容し、支援計画に反映させていきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	29	0	0	0	・十分に行われていると思います。	支援計画の内容を担当職員同士で共有しながら、日々支援に努めてまいります。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	28	0	0	1	・毎回活動プログラムを工夫していただいているので、子どもも楽しみにしています。 ・製作、トランポリン、ダンスなど、様々な内容で提供されていると思う。	現在の課題を見極めながら、子どもたちが楽しめるようにプログラムを組んでいます。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	8	4	3	14	・交流が無いのでわかりません。	今後機会があれば、検討していきます。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	29	0	0	0	・用紙でももらったので分かりやすかったです。	保護者の方に、わかりやすく支援計画の内容を説明します。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	28	0	0	1	・毎回、面談をもらっていないに説明してもらっています。 ・用紙を見ながら説明してもらいました。	保護者の方に、わかりやすく支援計画の内容を説明します。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	28	0	0	1	・LINEなどで研修のお知らせを知らせてくれるので、行われていると思います。	ペアレントトレーニング等の講座のお知らせをLINEを駆使したり、案内を配布したりして、随時お知らせしていきます。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	29	0	0	0	・毎回詳しくフィードバックをしていたのでわかりやすいです。 ・連絡帳や口頭で日々の様子について伝えて頂いているのでできています。	連絡帳や口頭の会話、臨時面談等を通して、子どもたちの日々の様子の把握をし、支援をしていきます。

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	29	0	0	0	・面談の際、具体的に説明してもらい助かっています。 ・面談を通して、相談しやすい場が作られていると思います。	支援計画の定期面談だけでなく、臨時面談も行っていることを伝えて、「何かありましたらいつでも相談してください」と保護者の方に呼びかけていきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	29	0	0	0	・支援されていると思います。	職員同士の情報共有を徹底していきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	5	0	17	・参加していないので分かりません。	ペアレントトレーニング等の講座で、保護者同士の交流が持てる機会を設けて行きます。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	28	0	0	1	・些細なことでもすぐに相談に乗ってもらいいつも助けてもらっています。 ・LINEや電話などですぐに返信があるので、早いと思います。	「何かありましたらいつでも相談してください」と伝えて、必要に応じて臨時面談も随時行っていきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	29	0	0	0	・連絡帳や口頭で日々の様子について知れるのでいいと思います。	子どもたちの活動の様子を具体的に伝え、できていることはしっかりと褒めます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	27	1	0	1	・LINEで送られてくるので、発信されていると思います。	LINEを駆使して、活動プログラムやかわら版の送信を継続していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	28	0	0	1	・十分保護されていると思います。	引き続き、個人情報保護の徹底をします。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	28	0	0	1	・日頃から訓練をされていて、万が一の時も対応してもらえると思っています。 ・用紙でいただき、説明も十分してくれました。	契約時に説明を必ず行います。また、避難訓練や防災訓練も定期的に行います。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	26	1	0	2	・連絡帳や口頭で避難訓練について教えていただいています。	6月に台風・水害、9月に火災、1月に地震の訓練を定期的に行っています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	28	0	0	1	・十分行なわれていると思います。	万が一、事業所を利用している最中に地震が起こった場合の対応法等を今後も保護者に周知していきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	26	0	0	3	・まだ事故などしていないので分かりません。	事故が発生した場合は、速やかに保護者に連絡し、誠心誠意を持った対応をしていきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	29	0	0	0	・子どもが“早く行きたい”と張り切って準備しています。	今後も子どもたちが安心して、楽しく通える事業所にしていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	29	0	0	0	・先生方がとてもやさしく、毎週通うことをとても楽しみにしています。 ・子どもが「みらいいつ?」「まだなの?」と早く行きたいようで、よく聞いているので楽しんでいると思います。	子どもたち一人一人の好みを把握し、楽しく課題に取り組めるように日々工夫していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	29	0	0	0	・大変満足しています。 ・子どもが楽しんで行っているので安心しています。	今後も子どもたちが安心して、楽しく通える事業所にしていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援 みらいplus		公表日		2025年 2月 3日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	安全面を考慮して、子どもたちの活動スペースの十分な確保を行っている。	子どもたちが活動しやすいように、十分なスペースの確保をしていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	職員の人数の配置が適切になるようにしている。子ども1人に対して、職員2人配置している等。必要に応じて、応援体制を取っている。	今後も職員の配置が適切になるようにしていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	段差や危険な箇所がないか確認をしている。段差があるところに、足跡マークをつけて、注意喚起を行っている。	段差や危険な箇所には、視覚的支援を行い、注意喚起を行っていく。また、段差や危険な箇所の確認を日々行う。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	活動終了後に、毎日清掃をしている。子どもたちが活動しやすいように、十分なスペースを確保している。	今後も清掃を行い、清潔する。子どもたちの活動スペースを十分に作る。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	個別療育を行う時は、パーテーションで仕切りをしたり、療育を行う場所を決めたりしている。	今後も子どもたちが活動に集中しやすい環境設定をしていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	3	週1回ミーティングの時間を作って、話し合いを行っている。	話し合う時間が足りず必要な時は、随時相談をして、話し合う時間を確保する。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	毎年保護者からアンケートを取り、業務改善に繋げている。	今後も保護者からのアンケートを継続していき、保護者からの意見を受容し、改善に努める。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	ミーティングや1on1などを設けており、話し合いができています。	職員の意見を聞き、反映していき、業務改善に繋げていく。職員全員が意見を言いやすい環境を作る。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	ABAのコンサルタントを年に2、3回ほど行い、助言を受けて、業務改善をしている。	今後も定期的にABAのコンサルタントを受けて、日々業務改善をしていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	月1回内部研修を行っている。年に2回ほど、外部研修を行っている。	今後も月1回の内部研修を行い、日々の業務に繋げていく。また、外部研修も継続していく。	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	月ごとに活動のプログラム作成をして、保護者に配布している。	今後も活動内容を保護者にお知らせしていく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	モニタリングや面談でしている。	今後も適切なアセスメントを行い、支援計画に反映させる。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	支援計画案を出し、担当者に内容の確認をしてもらっている。担当者の意見を踏まえた上で、支援計画を作成している。	今後も担当者の意見を反映させて、個別支援計画を作成する。支援計画の内容を話し合う時間を設ける。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	最新の支援計画内容を確認しやすい位置に置き、計画に沿った内容で日々進めている。	支援計画の内容を担当者に周知徹底をして、計画に沿える内容で作成していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	活動記録を日々取っている。	今後も日々活動記録を取っていく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	「本人支援」「家族支援」「移行支援」等に分けて、支援計画を作成している。	「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらいについて、勉強会を行い、周知徹底していく。	

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	2	ミーティングで、どのようなことをするか話し合いをしている。 月ごとのプログラムをカレンダーに記載している。	定期的に活動プログラムの話し合いをする時間を設ける。活動プログラムを保護者にお知らせするのを継続して行う。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	子どもたちが課題克服していることは終了し、次のプログラムを立てている。固定化しないように、その都度見直しを行っている。	子どもたちの様子を見ながら、プログラムが固定化しないように工夫をしていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	グループは、個別療育の時間と集団活動の時間がある。 個別活動と集団活動を両方、支援計画を作成している。	子どもたちの利用状況に合わせて、個別活動と集団活動の内容を組み合わせ、支援計画を作成していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	担当者同士で声を掛け合いながら、話し合う時間は作っている。	支援内容について話し合う時間がない時は、その都度相談をしてもらい、話し合う時間を作るようにする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	3	活動終了後に振り返りをする時間を設けている。	振り返りをする時間を作り、どの職員も意見が言いやすい環境にしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	日々活動記録を取っている。 過去の活動記録を見ながら、どのように支援をしていくか各自考えている。	日々の記録を取ることを徹底し、過去の活動記録を見ながら、支援検証しやすい記録の仕方を周知徹底していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1	半年に1回モニタリングを行っている。	半年に1回のモニタリングは今後も継続していく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	子どもたちのことをよく理解している支援者に面談に入ってもらっている。	子どもたちの日々を理解している支援者が面談に参加してもらうことを継続していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	3	保育所等訪問を行っている。 相談支援事業所の方や幼稚園の先生が、子どもたちの療育の見学に来られることがある。	関係機関との連携をさらに深めていけるようにする。関係機関から面談や見学の希望があれば、受け入れる。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	保育所等訪問を行っている。 幼稚園の先生が子どもたちの療育の見学に来られて、情報共有をすることがある。	移行に向けた支援を行う。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2	保護者の希望があれば、学校等の情報共有は行う。	保護者の希望があれば、今後学校との情報共有を行っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会なども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	2	児童発達支援センターと子どもたちの普段の様子や支援計画の共有を行っている。	引き続き児童発達支援センターとの連携を取っていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	現在は行っていないが、今後検討していく。	機会があれば、検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	保護者のお迎えの時に、本日の活動の様子を口頭で伝えている。また、必要に応じて臨時面談を受け付けている。連絡帳に目を通して、記載をしている。	日々子どもたちの様子を口頭での説明、連絡帳、面談等を通して伝えていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	ペアレントトレーニングや子育てを行う上で役立つ講座を行っている。	今後もペアレントトレーニング等を継続していき、保護者にもお知らせをする。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時に説明を行っている。	今後も契約時に運営規程、支援プログラム、利用者負担等について説明を行う。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	面談で保護者から聞き取った内容に基づいて支援計画を作成している。	今後も保護者の思い、子どもたちのことを尊重して、支援計画を作成していく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	支援計画の説明を保護者に必ず行い、同意を得ている。また、支援計画の内容の変更希望があれば保護者に記載してもらい、修正して再度説明することがある。	今後も保護者に支援計画の説明を行い、必要に応じて、計画内容を変更していく。支援計画の内容の同意を得ることを徹底していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	1	5	保護者から相談希望があれば、面談を提案し、必要な助言を行っている。	保護者から相談の希望があれば、随時面談を行う。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	0	保護者会を検討している。	機会があれば、検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	相談の申し入れがあれば、すぐに対応し、面談日を調節している。また、可能な限り当日の臨時面談も行っている。	今後も相談の申し入れがあれば、迅速に対応していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	インスタグラムやかわら版等で、日々の活動の様子を発信している。	今後も定期的に日々の活動の様子をお知らせしていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	写真を掲載する際は、保護者の許可を取り、顔と名前をわからないようにしている。	今後も個人情報保護を徹底していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	絵カード等を用いて、視覚支援を取り入れている。活動内容をホワイトボードに書いて、順序立てて説明している。	視覚支援を取り入れ、子どもたちが何をするか理解して見通しを持てるようにしていく。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6	現在は行っていないが、今後検討していく。	機会があれば、検討していく。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	マニュアルがある。災害の避難訓練や防犯等の研修を行っている。保護者に地震等が起こった時の対応法を説明している。	マニュアルを取り出しやすい位置に置いて、すぐに見られるようにしておく。年に2回ほど避難訓練を行う。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	防災袋を用意している。地震・水害・火災等の避難訓練を行っている。	防災袋がどこにあるか、職員に周知徹底しておく。継続して避難訓練を行う。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	事前に、確認を行っている。また、てんかんが起こった場合の対応法、かかりつけの病院も確認している。	事前に、服薬や持病がないか必ず確認を行う。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	アレルギー確認を必ず行っている。	今後も継続してアレルギー確認を行う。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	災害についての研修や救命の講習がある。	今後も災害についての研修や救命講習を行う。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	災害が起こった時の対応法を保護者に伝えている。	避難訓練を行っていることを伝えたり、災害が起こった時の対応法は保護者に周知しておく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ヒヤリハットを回覧して、再発防止について話し合いをしている。	何かあれば、すぐにヒヤリハットに記載し、共有と再発防止を職員間で徹底していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	市役所の職員による虐待防止の研修を行っている。	今後も虐待防止研修を継続して行う。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	2	現在、身体拘束が必要な状況にない。	今後は必要に応じて、身体拘束について説明することを検討していく。	